

平成 19 年度宮前区区民会議企画部会（第 1 回）摘録

日 時 平成 19 年 4 月 26 日（木） 18 時 05 分～20 時 10 分
場 所 宮前区役所 4 階第 1 会議室
出席者 小林委員長、永野副委員長、目代委員、渡辺委員、浅野委員、鈴木恵子委員
事務局 田辺企画調整担当主幹、中山主査、東主査、成沢職員
安藤総務企画課長、川本主査

1．開会

事務局から事務連絡

- ・ 区役所人事異動について 原企画調整担当主幹の後任となった田辺企画調整担当主幹から自己紹介
- ・ 情報公開の説明
- ・ 委員出欠・遅刻等の連絡等。

委員長あいさつ

- ・ 年度が改まって第 1 回の委員会、今年度どのように進めるかも含め、議題が沢山ありますので、ご討議をよろしく願いいたします。

2．報告 宮前区地域防災計画について（総務企画課長 安藤）

安藤総務企画課長から、平成 18 年度に策定された宮前区地域防災計画（資料 1）の概要について説明があった。資料の内容に付加された主な事項は以下のとおり。

策定のプロセス等について

- ・ 地域防災計画は昨年 10 月上旬に全体方針が出され、その後地域特性を踏まえた各区計画が 3 月末までに作成された。
- ・ 今回は、特に多摩川の沿線で洪水が起こった場合の想定を行なった。
- ・ 区民会議での説明後、区内の公共機関（警察・消防・民間のライフライン各社）の方々や、金融機関の代表、地域防災組織のリーダー研修会、宮前区まちづくり協議会防災部会などからもご意見をいただいた。
- ・ 計画書は 300 部印刷し、各避難所などで配布している。様々な場でぜひ活用いただきたい。今後各地域で内容の普及に努めていく。

計画の内容について

- ・ 地域での避難所運営体制、ボランティアの支援体制、災害時の要援護者の支援、区災害本部の運営体制の 4 点が計画の柱となっている。
- ・ 自助・公助・共助の考えが初めてはっきりと示された計画である。
- ・ 大災害の場合、公助が本格的に動き出すには 3 日間を要するといわれている。これまでの計画は、行政は被害を受けないかのような想定の前で書かれていたが、今回は行政が受ける被害も想定している。
- ・ 区本部の体制づくりに関して、これまで行政職員は居住地区に最も近い区役所に参集することになっていたが、今年度から勤務区区役所に参集することに改められた。
- ・ 災害支援ボランティアに関する記述は今回初めて取り入れられたものである。（23P～）
- ・ 区内の自主防災組織一覧（全 74 団体、35P）、自主防災組織などからなる防災ネットワーク一覧（38P）など資料編も充実させた。

意見交換・質疑応答

永野副委員長 一番大切なのは自助・公助の部分で市民が何をすればよいのか、わかりやすい形で示すことではないか。それが伝わるしくみを作っていかなければならない。予防、発生、事後など時系列的にわかりやすく、簡潔にまとめた資料を作成するような予定はないでしょうか？

総務企画課長安藤 区全体としては無いが、地域で、工夫され作成されている地域があるという話は聞いている。

永野副委員長 阪神大震災の時は地震発生後最初の15分にかなりの人が亡くなったと聞いた。

渡辺委員 防災は、自助7：共助2：公助1であり、まず自分の身は自分で守ることを普段から自治会活動を通じてお願いしている。しかし対策の実現は難しい。昨年11月の千島列島地震では、津波の避難勧告を聞いて、学校で学んでいた子どもは逃げようとしたが、親の判断で避難をしなかったという様なことがあったようだ。自然災害の発生は防げないが、被害を最小限にするため、いかに対応策を実行させるか、その辺を盛り込んだ計画でなくてはならない。

小林委員長 区民の方にどうやって理解してもらうか。どのように動けばよいのか。そのアピールがまだ少し足りないように思う。今回初めて示された自助の考え方ももっとアピールすべきではないか。

総務企画課長安藤 「備える」という災害に備えるためのチェックリスト風に編集された冊子を、世帯ごとに配布し、数年おきに内容を更新するなど、広報媒体にも工夫を凝らしている。ただし、この冊子や今回の計画だけではまだ十分ではないと考えており、今後も努力していきたい。

浅野委員 生活環境事務所が発行しているゴミの出し方や収集日を書いたポスターは、家の中に掲示している家庭が多い。防災に関する呼びかけもそれに組み合わせよううまくできないか。防災用品などは一度揃えても、ついそのままにして買い替えなど怠ってしまう。冊子はなかなか読まれない。小出しに情報を伝えると良いのではないか。

鈴木委員 野川台自治会で災害発生時に弱者に手を差し伸べるための防災マップをつくりたいという要請が出てきている。門前町の防災マップ作成などに関わった先生が毎月指導に来てくださっており、今年ぜひやってみようという話になり、助成金の申請をした。全区で行なうことは難しいが、野川台自治会のように数千人規模の地域なら、情報の細かいマップもつくれるのではないか。ひとつモデル的な地域ができれば、それが波及していく。一緒にノウハウを学びながら、広げていきたい。

渡辺委員 門前町では災害後4時間で全町民の安否確認ができたそうだ。安否確認用マップの必要性を痛感した。

鈴木委員 須坂や安城の防災マップでは、要支援者がどこに寝ていて、家具の配置がどうなっているかなど家の見取り図まで入っているそうだ。そこまでできるかどうかは疑問だが。

小林委員長 地域からマップをつくりたいと助成金を申請する形だけでなく、区役所の方から資金を用意し、先進事例を紹介しながら呼びかける形も行なえば、もっとやりやすくなるのではないか。

目代委員 民生委員の間でも高齢者の見守りマップを作ろうという意見が良く出ており、動き出した地域もある。区役所から地図をもらって拡大し、何が足りないか、何をするのか勉強会から始めている。門前町でマップが有効だったということで、皆さん積極的だ。

自助の部分では、問題意識のない方たちに向けての広報活動が非常に大切だ。防災拠点がどこか知らない方も多い。

小林委員 行政職員は災害発生時に勤務区に参集するということだが、宮前区職員は何割くらいが区民なのか？

総務企画課長安藤 宮前区には建設センターなども含めて300人ほどの区職員がいるが、その約3割が、

区内もしくは市内の徒歩で参集可能な圏内に住んでいる。

小林委員長 中学校単位の防災ネットワーク連絡会議は、これまでどのくらい開催されたのか？

総務企画課長安藤 昨年度(平成18年度)はリーダー研修会を地域振興課の所管で各地区で2回開催。

平成17年度は防災訓練を各地区で2回以上開催しているが、これまではそれほど活発でない実情があった。

永野委員 会議の議事録のようなものは公開されているか？

総務企画課長安藤 これまでは、会議というよりは研修会で、防災の専門家がきて課題を出して取り組むというような内容だった。議事録のような形では記録が残されていない。

永野委員 計画が出され、しくみの絵はあるが、そこでどのような議論がなされ、その内容が誰にどのように伝わっていくのか、わからない。何を議論するのかというところから始めなければならないのではないか。

総務企画課長安藤 組織の役に名前を入ただけで、10年何もやっていない地区もあるようだ。また活発に活動をしていても、役員が代わると活動が終わってしまうこともある。役所も研修会は行っているが、各会の啓発まではこれまで行き届いていなかった。

小林委員長 昨年度静岡に先進事例の視察にいかれたと思うが、何かヒントがあったのではないか？

総務企画課長川本 まちづくり協議会と自主防災組織の方が視察に行かれた。計画の26ページの「東海地震に関連する対策計画」などに、その時の意見や事例が反映されている。

3. 議事

(1) 審議課題「地域防災力の向上」の審議方法について

小林委員長 防災は昨年度全体会での審議課題としていたが、今後は専門部会を立ち上げるべきとの声が聞かれている。部会を立ち上げるべきか？どのような切り口で審議すべきか？

永野委員 専門部会にしたほうが、討議回数も増えて良いだろう。審議内容は「区民が何をすべきか」に絞ってはどうか。

渡辺委員 家庭における予防と意識改革が重要だ。どこかで災害があった時だけ意識するのではなく、常に意識し準備するよう、繰り返し減災対応を区民に訴えていく必要がある。あまり手を広げずに、基本的な部分から取り組んではどうか。

浅野委員 予防を含めての自助とその啓発が必要だ。自主防災組織の助成金がどの程度、どのように利用されているか知りたい。共助の部分は明日のコミュニティ部会と内容が重なるのではないか。

鈴木委員 行政に何をバックアップしてもらうか、じっくり考えたい気がする。漠然としているが、自分たちで助け合う組織づくりをバックアップするしくみが欲しい。部下同士、似たようなことをやるのではなく、つなぎ合わせたり、連動させていくことも必要だ。

目代委員 自助・公助・共助の考え方をまず知らせたい。何をしたらいいのか、ソフトの部分をもっと区民にわかりやすい形で知らせる。その辺りを形にできるような審議ができると良い。

永野委員 タイムスケジュールと自助・公助・共助の切り口で一度全部整理してはどうかと常々考えている。課題を全て出し合うワークショップを開催してはどうか。

小林委員長 これまで様々な場で課題は出され、整理されている。もう一度最初からやるというのは良くないのではないか。

永野委員 家具の配置のことなど、資料から抜けがちな情報がある。

小林委員長 災害発生前の自助と災害発生直後の共助、この二つに分けて議論してはどうか。

鈴木委員 そのへんのことは区民さんは結構わかっている。私の地区では、「書き込みノート」というものがあり、何ができていて、何ができていないのか、記録できるようにしている。

小林委員長 皆様、専門部会を立ち上げるということを企画部会から全体会で提案するということよろしいか？

一同了承

(2) 明日のコミュニティ部会の審議の方向性について

事務局 昨日予定されていた部会は委員の出席が少なく、中止とした。これまではフリーな議論をしていただいていたが、今後は議論の焦点を絞りたい。井戸端会議的になってしまっただけでは困る。地域防災が専門部会となるなら、その部分はその部会にまかすような形が良いのではないかと。

浅野委員 明日のコミュニティの狙いを良くわからずに発言しているが、コミュニティ形成のために人と人が話し合う場をつくるきっかけとして、防災というテーマが非常に良いのではないかと。地域防災専門部会だけで討議したとして、それがうまく明日のコミュニティ部会に内容が渡せるのか。

自宅を見られたり、個人情報提供を拒否する人も防災という名目には折れる人もいます。専門部会を立ち上げるにしても、そこに明日のコミュニティ部会の人も参加するなどの形をとってはどうか。

事務局 これまで明日のコミュニティ部会で防災が特化されて話題となることはなかったように思う。防災の専門部会の進め方や内容については、部会のメンバーに決まった委員やその部会長の意向に基づくとということでしょうか。

小林委員長 明日のコミュニティ部会との兼ね合いも今後の協議事項ということでしょうか。

一同了承

(3) 今後の審議課題について

小林委員長 昨年度から引き続き明日のコミュニティ部会が審議を行なうのに加え、新しく地域防災に関する専門部会を立ち上げる。今年度の区民会議の審議課題については、これ以上の議題を追求するのは時間・労力的には難しいのではないかと考えているがどうか？

一同賛成

小林委員長 それではその方向で企画部会から提案するということにします。

一同了承

(4) 区民会議からの提案に対する取組み状況について

事務局 昨年度の区民会議の審議の結果としていただいた 17 項目の提案について、区役所では毎月 1 回企画調整会議の席で進捗状況を報告するというしくみをつくった。この場であがった報告を区民会議の席で区側の取組状況としてまとめ、皆さんに報告させていただくしくみにしたい。

また、市民の側の取組状況の把握も重要と考えており、この点ではみなさんの協力も不可欠と思うが、どのように進めたらいいか、ご討議いただきたい。

小林委員長 行政側では様々な動きが始まっている。区民会議も区と協調し、活動団体や地元地域と連携しながら進めていきたい。

鈴木委員 高齢者福祉に関する提案については、地域ケア会議の中で早速話し合いがあり、かなり早いスピードで取り組まれているという印象を持っている。

事務局 各種団体の総会で、事ある毎に区民会議からの提案と区の取組に関する資料を配布、説明して

いる。個別にも部会長や部会の委員さんを通じて、提案ごとに相談し、担い手候補をご紹介いただくなど、地域の方とのやりとりも徐々に始めている。

小林委員長 鈴木委員の地域のような、既に活動が先進的に行われている地域をいかに広げていくのか。そのための働きかけをどのようにしていくのか。世話役も必要だ。

事務局 ご近所サークルについては、以前 ITSCOM が撮影した紹介 VTR を 5 月から区役所のロビーで 1 日 2 回ほど放映する計画を進めている。

鈴木委員 東有馬地区、南平台地区では新たな拠点が生まれ、ご近所サークルが広がる可能性が出てきた。行政に対する高齢者支援、地域包括のバックアップのお願いなども始まっている。

事務局 5 月の区民会議では、進んでいない部分についても含めて、区から報告する。地域の方からも何かあれば報告していただきたい。

鈴木委員 ご近所サークルなどについては、私たちの地域のノウハウを出前講座的に他地域に伝えることも可能です。声をかけていただければ、どこの地域にでも行きます。

渡辺委員 私の地域ではこれまで多摩区にあった地域包括支援センターが、地域内に移転して参りますので、地域連絡会設立の取り組みを開始したところです。鈴木さんの地域にお手本が有りますので、これからよろしく願いいたします。

鈴木委員 言う、発表するということは大切です。そのことで勢いもつきます。言ってしまつとやるんです。

渡辺委員 まだ必要な 3 職種を担う人材が揃っていない点もあり、スタートはこれからです。支援センターは財源確保が大変で、担い手も少ないという新聞報道がありました。

浅野委員 地域包括支援センターは、まだ宣伝がゆきわたっておらず、難しい部分がある。

小林委員 市民側の動きについては、まず部会長さんに報告をお願いできないか。

目代委員 子育て支援について、居場所づくり、赤ちゃん広場の拡充など必要な場所を具体的に調査しようという話になっている。今年中にはなんとか形にしたい。

小林委員長 市民側の取組について、元部会のメンバーで非公式に集まって話し合ってもいいのではないか。

目代委員 子ども部会ではお互い電話などで頻りに連絡を取り合っている。彼女たちの思いも強い。

事務局 部会長からだけでなく、他の委員からの取組もあればぜひ報告していただきたい。数日前に公園の住民管理について、目代委員、松本委員に担い手となりそうな団体や人のご紹介をお願いし、早速明日会うことになっている。こういったことも市民の側から報告していただけるとありがたい。

(5) 区民会議の委員の任期について

事務局 現委員の皆様には平成 18 年 7 月 1 日付けで委員の委嘱を行って活動を始めた。区民会議条例に基づくと任期は 2 年間で、平成 20 年 6 月末までということになるが、区役所の人事や予算請求、活動団体の活動周期とのずれがある。任期のあり方について、今後区民会議を長く続けていくためにもご審議いただきたい。事務局としては、年度と合わせた方がよいのではないかと考えている。

小林委員長 私も平成 20 年 3 月で任期を終えた方が、次期の委員も動きやすいと考えるがどうでしょうか。今日お集まりの皆さんの了承が得られれば、全体会へ提案してみたいがどうか。

一同了承

事務局 形式的には 2 年間としてお願いしていた関係で、任期を 3 月までとする場合、言葉には抵抗があるかもしれないが、形としては「辞任」になってしまう。また次期の委員については、公募の方は

再選できないことになっているが、その他の委員は1回まで再選が可能となっている。審議の継続性を考えても、全ての委員を入れ換えるのではなく、何人かの委員さんにはぜひ残っていただきたい。**浅野委員** まちづくり協議会は6月に編成替えがあり、任期の途中で団体からの推薦委員が代わる可能性もあるが、それは良いのか。

事務局 推薦母体内での委員交代なら、全体で報告を行えば特に問題は無い。

(6) 平成19年度第1回区民会議の議事について

資料5の次第案に基づき、以下のことが確認された。

- ・ 企画部会からの提案・報告は永野副委員長が行なう。
- ・ 区民会議の委員の任期については、明日のコミュニティ部会会合でも事前に話す予定である。その結果次第では議題から落ちる可能性もある。
- ・ 新しい専門部会の設置が承認された場合、その場で委員の選任を行なう。昨年度高齢者福祉、子ども部会に所属していた委員を中心に部会委員になっていただきたい。
- ・ 宇賀神委員については明日のコミュニティ部会の部会長であるが、自主防災組織の代表として区民会議に参加されているので、新部会の委員をお願いしたい。

4. その他

事業提案制度について

- ・ 25の提案があり、先日の委員会の結果3事業が採用され、今後事業の担い手募集に入る。
- ・ 提案によって出された新たな地域課題も資料2の「宮前区における課題一覧」に加えられた。

前年度第4回区民会議での織田参与の発言を受けて

小林委員 前年度第4回区民会議での織田参与の発言を受けて、参与の方々と区民会議委員が話し合う場をもってはどうかという意見があったが、これをどう考えるか。時間的な余裕がないという問題もあり、別途機会を設ける方法もあると思うがどうか？

永野委員 区民会議の中で設定するのではなく、別機会として懇談会をもってはどうか。

浅野委員 区民会議に対してのクレームではなく、制度自体に対する不満を表明した発言だったと考えている。

小林委員長 基本的には委員の発言を最優先することが基本だ。時間があれば、参与の発言もかまわないうが、現実には時間がない。参与の経験に基づいた意見を聞きたい気持ちはあるが。

渡辺委員 参与と区民会議、全員となると結構大きな場になる。

鈴木委員 参与の方々には区民会議の話題、課題を理解・把握していただき、それを市政の場で反映していただく。これは非常に価値のあることだと思う。私の地域には議員の方が、活動の内容を聞きにいらっしやることもある。そうした時には、欲しい支援や助成などの希望も伝えている。

目代委員 情報収集だけでも良い場だと思っていたら、そう捉えていない参与さんもいたようだ。参与の方と腹を割って話し合えるような場があれば、互いにとって非常に良い機会になると思うが。

小林委員長 ここだけで決めるのではなく、他の委員の意見も聞いてみましょう。

永野委員 懇談会ではなく、懇親会に近いような形がよいのではないか。

小林委員長 参与の方々の意向も確認したい。

(以上)